



岩手

『岩手の三大文化』小岩井農場物語
歴史・文化・自然、
そして畜産と林業に生きる
今の姿にふれる旅

小岩井農場

岩手山南麓に位置する小岩井農場(岩手県岩手郡雫石町丸谷地、019・692・4312、<http://www.koiwai.co.jp/>)は、小岩井農牧

(東京都千代田区丸の内、児玉喜一社長、03・3213・2871)が所有する総合生産農場である。創業は明治24年、創業者である小野義真、岩崎彌之助、井上勝の三氏の頭文字をとって「小岩井」と名付けられた。

現在は緑豊かな風景が広がる総面積3,000haの農場だが、開設当時は立木もまばらな荒蕪地だった。強い西風から作物や土壌を守るために防風林の植栽や土塁を設置し、石灰で秋田駒ヶ岳由来の強い酸性土壌を改良し、さらに作物づくりにも最も障害となった湿地対策として暗渠排水を施すなど、数十年にわたり基盤整備の努力と工夫を積み重ね、今では「大地の美術館」と呼ばれるまでに蘇らせた。

また、2,000haの計画的な植林を行い、その後も持続可能な



100年前の農場職員の服装に身を包み案内するガイド



林業が育んだ豊かな自然にふれることができるツアー

森林管理を継続してきた結果、多種多様な生物を育む森になり、貯水量800万tにも及ぶ「緑のダム」をつくり上げてきた。

一方、この厳しい環境に適応するために始まった酪農事業は、国民の体格向上という国策に寄与すべく、欧州から導入した優良種畜を基に系統的な繁殖を行うブリーディング事業を展開し、全国の牧場へ優秀な乳牛を広めてきた。現在では、畜産と林業、さらに環境緑化事業や観光事業等、一次産業から三次産業まで多角的経営を行っている。このような歴史的背景も踏まえ、小岩井農場は「平泉文化」、「釜石溶鉱炉製鉄」とともに、『岩手の三大文化』と呼ばれている。

これら120年余りの歴史・文化から、自然、そして畜産と林業に生きる今の姿まで幅広くご紹介しているツアーが「ガイド付きツアー『小岩井農場物語』」である。このツアーは、第10回エコツーリズム大賞において「大賞」を受賞したほか、第8回産業観光まちづくり大賞において「観光庁長官賞」を受賞するなど、多方面から高い評価を得ている。ぜひ、本物の小岩井農場の姿をこのツアーに参加して体感していただきたい。